



天候不順の影響でリンゴ収穫量は約30%の減産予想

中国産リンゴの主産地は山東省で、加工用の品種はフジ種になります。

特に煙台エリアの栖霞(チシャ)地域は生食用に人気のブランドリンゴも生産しており、生食用向けでは最大の栽培地域です。今年は、天候不順の影響で中国産の黄桃、ぶどう、洋梨、リンゴ等のフルーツ果実は全体的に減産となっており、リンゴ収穫量については約30%の減産と言われており、果肉は小粒傾向です。

栽培農園に訪問し確認したところ、約70%は小粒との状況でした。(添付写真)

また加工用リンゴは、製品規格により原料サイズが限られている事と近年生食用リンゴも引続き引合いが強い状況から、原料価格は高騰しています。

フジ種の収穫は主要の煙台エリアで、10月20日以後のスタートとなり本格的な生産は11月以後からの予定となっています。



現地のリンゴの様子(10月7日撮影)

